

子どもたちの育ちと学びをつなぐ 幼保小の連携

推進テーマ

～園生活から小学校生活へのつながりを大切に～

池辺白ゆり幼稚園
都田小学校

推進テーマ設定の理由

- ・ 幼保小交流で顔を合わせる機会があったが、職員同士のかかわりがその時だけであり、互いの生活の様子や学びを実際に見たり聞いたりする機会がなかった。本年度は取組の1年目なので、まず、園の生活や学びを小学校が知ったり、園から小学校の授業の様子を見に来てもらったりする機会を増やし、相互理解を深めることが大切と考えた。
- ・ 小学校の全職員が、スタートカリキュラムについて学ぶことで、園生活から小学校生活へのスムーズな接続を図ることができると考えた。

推進内容

- ・ 7月 幼稚園の生活を全小学校教員が見学
- ・ 7月 小学校でスタートカリキュラム研修
- ・ 7月 教育連携研修会環境部会 担当者参加
- ・ 10月 幼稚園の職員が小学校の運動会を参観
- ・ 11月 幼稚園の職員が小学校の公開授業に参加
- ・ 1月 幼稚園の職員が小学校の授業研究会に参加
- ・ 2月 1年生児童が幼稚園を訪問 年長児と交流
- ・ 2月 幼稚園の園児が小学校を訪問 1年生と交流
5年生と交流（花の球根を植える）

今年度の重点課題 ～今年度力を入れたこと～

- ・ お互いの園生活や学校生活について知り、職員同士の理解を深める機会を大切にする。
- ・ 幼児期と小学校の接続期のスタートカリキュラムについて、まず全職員での研修を通して共通理解を図る。そして、顔の見える関係性を作り、園の先生に年長児の様子を聞き、それを取り入れて計画を立てる。

活動の実際

7月 幼稚園の生活を小学校の全教員が見学

初めて幼稚園に行く職員もいました。制作時の子どもたちの様子や、荷物の管理の仕方など、子どもたちが自分で考えて行動することができる工夫を教えてくださいました。自分で考えることを園でも大切にしていることが分かりました。

《見たい！》

園児はどんな部屋ですごしているんだろう。
給食やお弁当はどうやってたべているの。
トイレは小学校とちがうの。

《知りたい！》

保護者とは、どのようにコミュニケーション
をとっているの。



活動の実際

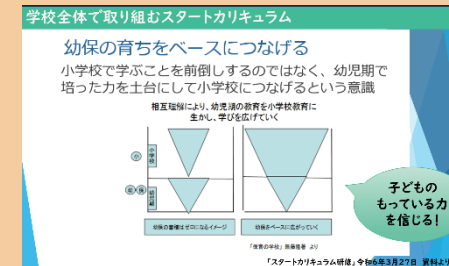
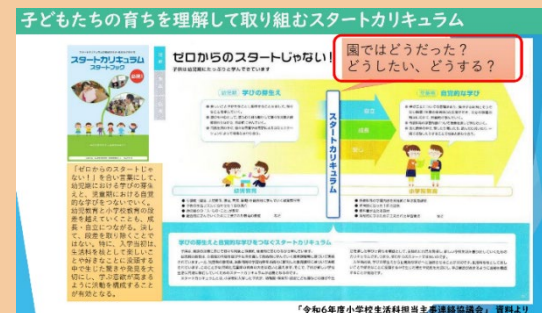
7月 北部学校教育事務所 仲野舞子先生による スタートカリキュラム研修

1年生の担任だけでなく、全職員で共通理解していくために、研修を行いました。幼児期に育った力を土台にして小学校につなげるという意識や、スタートカリキュラムはアクティブラーニングであり、2年生からも続いていくものであることを再確認しました。

子どもの「やってみたい」の気持ちを大切にします。

子どもたちの「学びの芽」を見つける。

「園ではどうだった？」
「どうしたい、どうする？」
問いかける。



活動の実際

8月 教育連携研修会環境部会で学んだことを実践

夏休み前と後に水遊びとシャボン玉遊びをしました。夏休み中の園への訪問や研修会で、園では「使いそうな物を準備しておく。」、小学校では「必要な物を自分で考えて準備する。」とギャップがあったことを知り、夏休み後の遊びでは、シャボン玉遊びで使いそうなものを準備しておきました。すると、知識を使い、友達と教え合い、探究的に活動する子どもたちの姿が見られるようになりました。



あさがおの支柱で大きなシャボン玉ができたよ。四角いからハンガーより、シャボン玉液につけやすい。



友達がやっていたのがすごくて、教えてもらったよ。モールをわっかにして、タコ糸を付けて回すと、たくさんシャボン玉ができた。

いろいろな太さのストロー、ハンガー、あさがおの支柱、モール、様々なひも、はさみ・テープなどの道具を身近なところにおいて活動しました。

活動の実際

2月 1年生児童が幼稚園を訪問 年長児と交流

園児が小学校に来て交流する活動を前に、「どんなことが楽しみなんだろう。」「どんなことが不安なんだろう。」という疑問を解決をするために、園を訪問する予定です。子どもが歩くと20分近くかかり、また大きな道路を渡ることになり、1年生の前半には訪問が難しかったのでこの時期に設定しました。

実際に交流することは、園児の思いを知る機会になったり、自分の成長を振り返ったりする、貴重な機会になると考えました。



何度も顔を合わせる機会があり、園と小学校の先生同士が顔の見える関係になりました。入学時に使用する絵本や遊び道具など、どんなものを用意するといいかなどの相談にのってもらっています。



活動の実際

2月 幼稚園の園児が小学校を訪問 1年生との交流

池辺白ゆり幼稚園以外の幼稚園、保育園5つの園とも交流を続けています。今年は175名の年長児が来校する予定です。そのため交流日を3日に分けて行います。事前にインタビューしたことを生かし、年長児の思いや願いに合わせた交流ができるように準備していきたいと思います。

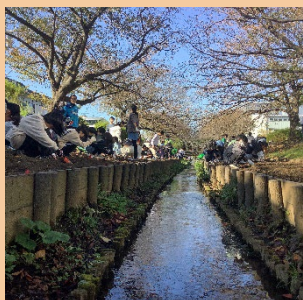
ここには何が
入っている
の？
掃除に使う道
具だよ。
(写真は昨年度
の物です。)



活動の実際

2月 幼稚園の園児が小学校を訪問 5年生と交流（花の球根を植えます。）

毎年5年生は、桜の名所である江川に地域の方とチューリップの球根を植えています。そのチューリップの球根がたくさんあったため、どうするか話し合いました。4月になるころに花が咲くので、来年の1年生のために植えようということになりました。年長児と5年生と一緒に「入学をまっているよ」の気持ちを込めて、校舎前にチューリップを植える予定です。



江川の球根植えでも植えた球根を



まっていたよ！

年長児と
植えると



入学頃に花が咲くよ

成果と課題

今年度は、夏季休業中に小学校の職員による幼稚園の施設見学を行った。実際に入学前の学びの場を見学することで、子どもたちが活動する場の設定、子どもたちが活動を行う場合のものの準備など、小学校でも活用できそうなところがあった。施設見学を生かして準備等を行うことで、子どもたちが活動にスムーズに取りかかる様子も見られた。

幼保小の交流については、準備の過程ではあるが、小学校の子どもたちも幼稚園・保育園の子どもたちと一緒に遊びたい、学校を紹介したいなど、意欲的に関わりたいという様子が見られる。

課題としては、小学校と幼稚園・保育園の距離が遠く、年齢的なものと安全面を考えると、なかなか交流の回数をとれないというところがある。それに伴い、年間を通しての活動の計画がなかなか立てられないというのが現状である。また、幼稚園・保育園の増加により、交流会の日程を立てるとなると、小学校の1年生の人数の約2倍以上の園児との交流ということになり、なかなか密に交流をもつということが難しくなっている。

今後に向けて

今年度は、夏に職員の交流を1回行った。幼保小の交流も、園の数が多いため、小学校で行う活動を3回（3回とも別の幼稚園・保育園）、連携の幼稚園に行つての活動を1回行った。小学校での活動は、事前に訪問した園でのインタビューをもとに、年長児の思いを受けて、小学校での生活を実際に経験してみる（ランドセルを背負う、文字を書いてみるなど）活動を主に行う予定である。

今後は、1年生の学習内容を伝え、運動会練習や秋遊びなどを園児に見てもらふ機会を設けたい。また、職員の交流を増やし、お互いの活動の情報共有ができたらと考えている。職員同士、児童・園児同士の関係を築き、小学校に入学した際、学校生活がスムーズに始められるようにしたい。